

O50039

## 動作確認チェックシート

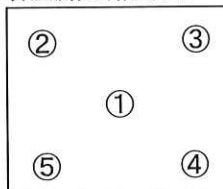
検査日	2024年 6月 25日	(機械の仕様・規格を記入する。)				
商品名	超音波洗浄機	電源電圧	単相100V, 10A 3相200V, 15A	超音波 発振器 (2台)	型式	本多電子 W-118
型式	M1600	周波数	50/60Hz		出力	600W 発振子:2カ所/台
メーカー名	株式会社ギガテック	大きさ(W×D×H)	1600×1220×2235mm	周波数	28,45,100kHz 単独,マルチ発振有り	
機械Ser.No	14A-7055	洗浄槽(≒160L)	600×520×550mm			
製造年月	2003年1月					

チェック項目	主な確認内容	チェック(○×)
1 外観	筐体・キャスター・継手・スイッチ等に著しいキズ・破損・動作不良はないか。	○
2 起動動作	POWER ON時に異常(異音・異臭・漏電・暴走・アラーム表示等)はないか。	○
3 SW設定	SWの機能は正常か。	○
4 保管・出荷準備	水抜き・ビス締め・清掃・在庫元に関するシール等を取り除く。	○
5 確認シール	動作確認済シールを貼る	○

備考(動作確認内容・不具合内容等) 機器の仕様・規格を満たす事を確認する。

- 純水供給設備はないため、超音波洗浄槽に純水を直接入れて動作確認をした。超音波発振の確認も手動での確認でレシピによる自動の確認は未実施。
- (1)給水スイッチON時エア弁の動作音は確認出来た。排水スイッチによる排水問題なし。  
(2)超音波発振:各周波数の単独発振、3周波マルチ発振(各周波数が一定時間で連続発振)共に問題なし。  
(3)音圧計を用いて発振状況を確認、問題なし。(下表参照)

音圧測定(相対値)



装置正面

周波数	音圧(mV)				
	①	②	③	④	⑤
28kHz	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
45kHz	8	8	8	7	8
100kHz	3	3	3	3	3

センサ(石英棒)を約50mm浸水させ測定

測定器:ホンダ製 HUS-5



※ 装置内に1/7~8程度液が残った、精密ガラス基板用洗浄剤(セミクリーンM-LO)のボトルがありました。前ユーザが取扱説明書(無) 超音波洗浄を実施時、純水に混入していたと思われませんが、詳細は不明です。

## 修理・改造履歴

年月日	修理・改造記録	作業者
2024年6月22日	制御ボックス用ファン2台の異音大のため交換。	野沢

File Maker入力

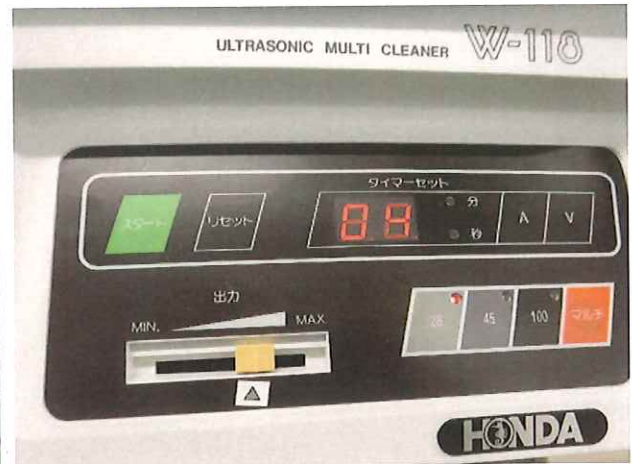
動作(OK) 作業工数[ 15H]  
検査担当者[ 野沢 ]

(備考欄コメント)

パスワードは『0000』です。

[責任者]





3周波マルチ発振方式(サンパ)。しつこい汚れに適した28kHz、細かい部分に回り込む45kHz、ダメージの少ないきめ細やか洗浄が可能な100kHz。この3周波を順次繰り返し発振することで、定在波による洗浄ムラを防ぐ。

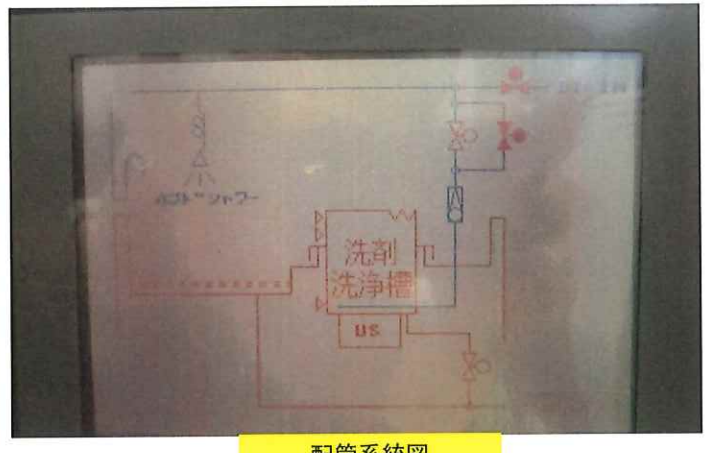
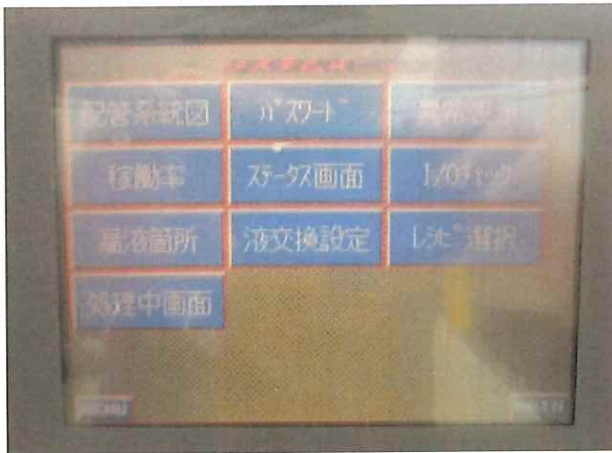
#### USセット方法

<マルチセット>(28,45,100kHzで各一定時間連続に発振)

- ①『リセット』を押す。
  - ②『マルチ』を押し、時間(分)を△Vで設定する。(例えば5分)
  - ③『28』を押し、時間(秒)を△Vで設定する。(例えば10秒)
  - ④『45』を押し、時間(秒)を△Vで設定する。(例えば10秒)
  - ⑤『100』を押し、時間(秒)を△Vで設定する。(例えば10秒)
  - ⑥『マルチ』を押す。
  - ⑦『スタート』を押す。
- 28kHz10秒⇒45kHz10秒⇒100kHz10秒の発振を5分間繰り返す。

<単独セット>

- ①『リセット』を押す。
  - ②周波数を選ぶ。(例えば28を押し)
  - ③時間(分)を△Vで設定する。(例えば5分)
  - ④『スタート』を押す。
- 28kHzで5分間発振する。



配管系統図



パスワード『0000』で『SET』



パスワード『0000』で『SET』後の表示画面